

静岡県西部地域しんきん経済研究所トピックス

2011年1月11日

「平成22年10～12月期中小企業景気動向調査」調査結果報告

－6四半期振りに悪化するも、前期の予想値ほど落ち込まず－

静岡県西部地域しんきん経済研究所（理事長 山本長行、以下県西部しんきん経済研究所）は、静岡県西部地域の中小企業を対象に行った「平成22年10～12月期中小企業景気動向調査」の調査結果をまとめましたのでご案内します。詳細は別添資料をご覧ください。

1. 調査概要（調査 静岡県西部地域しんきん経済研究所 協力 浜松商工会議所）

調査対象 静岡県西部地域の中小企業 636 社

調査方法 調査表による面接聴取法（遠州信用金庫、浜松信用金庫に委託）

調査時期 平成22年12月1～7日

回収状況 回収数 614 社（回収率 96.5%）

2. 「中小企業景気動向調査」の調査結果

① 平成22年10～12月の業況について

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数（DI＝「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を引いた数値）は全産業ベースで－44.7となった。平成22年9月の前回調査（－41.7）から3.0ポイント悪化。6四半期振りに悪化した。なお、前期の12月予想値（－53.5）からは上方修正となった。

② 平成23年1～3月期の見通しについて

1～3月期にかけて、業況DIは悪化を見込む。政策効果の剥奪や円高が直接・間接的に悪影響を及ぼしており、経営者のマインドは改善しない。

③ 主な業種別の動向

業種	業況DI(前期→当期)	動向
二輪部品製造(54社)	－41.1→－66.7	業況DIは25.6ポイント悪化。ただし、前回調査の12月予想値（－66.1）とほぼ同水準にとどまる。
自動車部品製造(69社)	－9.0→－34.8	エコカー補助金終了の反動が懸念されていたが、悪化幅は12月予想値（－62.7）よりも小さかった。
機械部品製造(65社)	－37.5→－50.0	業況DIは6四半期振りに悪化した。半年前（6月調査）と同水準にとどまる。
楽器部品製造(19社)	－78.9→－84.2	9月まで回復基調がみられず、今回も悪化。全業種中、最も悪い水準。
繊維製造(25社)	－60.0→－40.0	改善傾向が持続。綿価格上昇が懸念。
卸売業(89社)	－64.4→－52.3	業況DIは12.1ポイント改善。リーマンショック以降、最も良好な水準まで回復した。
小売業(70社)	－37.3→－40.0	ほぼ横ばいで推移。価格競争の激化や円高による仕入価格低下により、販売価格が低下している。
建設業(71社)	－45.1→－38.6	業況DIは改善。リーマンショック以降、最も良好な水準まで回復した。
不動産業(39社)	－41.0→－38.5	不動産の動きは鈍いが、業況DIは5四半期連続で改善。
飲食・宿泊・レジャー等(15社)	－43.8→－73.3	業況DIは29.5ポイント悪化し、－73.3となった。全業種中、悪化幅が最も大きい。

本件のお問い合わせ先

432-8036 浜松市中区東伊場2-7-1 浜松商工会議所会館9階

静岡県西部地域しんきん経済研究所 間淵 TEL 053-452-1510